

学生からのコメント

こんにちは、栗原研4年の安達華です。同じ研究室の佐野君にも手伝ってもらって書いています。私たちの研究室では週一回のセミナーを通じて整数論について勉強しています。今年のセミナーでは山本芳彦の『数論入門』を中心に読んでいます。整数論は、たとえば平方剰余の相互法則のように神秘的なものであふれていて、勉強するのがとても楽しいです。素数の神秘的なふるまいは奥が深く、これから先の風景がどんなにすばらしいものなのか気になります。私は栗原研に入って素数のことを勉強しているうちに、ある日をさかんに夢にまで素数が現れて、私を魅惑するようになりました。セミナーの準備でわからないところがあると、その素数たち（無限個）に聞きたい気持ですが、彼らは何も答えずに美しく微笑んでいるばかりです。

さて栗原研でのイベントは他にもいろいろあります。まず、年2回の野球の早慶戦には集まって応援に行きます。早慶戦観戦には、OB、OGの方々も研究室の学生と同じくらい多く参加されます。卒業後も仕事の合間を縫って研究室の行事に集まる方が多いことは、栗原研の雰囲気よさを表している気がします。今年の春は慶應が早稲田を倒したので特に盛り上がりました。

夏には長野県の蓼科で合宿を行います。準備してきた課題の発表を終えた後は、高原の気持ちいい空気の中で草野球をしたり、幾何の研究室と合同でバーベキューをしたりと、楽しい時間を過



ごすことが出来ました。夜の飲み会では、いつの間にかあちこちで数学談義が始まっていました。数学の研究室ならではの光景ですね。

そんなわけで、数学に骨まで浸かりたい人はもちろん、これまでの数学が苦手だった人も、これからの勉強で十分間に合います。私も高校までの数学はあまり得意ではなかったのですが、栗原研で素数の愛に目覚めてからというもの、数学が好きでたまらなくなりました。栗原研で、一緒に数学の世界に旅立ちましょう！

教員からのコメント



整数論を研究しています。数の世界に入っていくと、深く進めば進むほど美しい世界が広がるのです。ちょうど、山に登ったときに、上に行けば行くほど美しい景色が広がるように、先に進めば進むほど、美しい景色が広がります。写真を撮ってきて、見せてあげたいとも思いますが、やはり写真では本物の感動は伝わらないようです。自分で汗をかいて登ってみて、初めてめぐり合える景色は格別です。数理科学科に来て、数学

を勉強してみると、今までの数学は子供向けのものだったことがわかると思います。皆さんも、数理で本物の数学に出会いませんか。なお、整数論は代数系に分類されていますので、まずは代数を勉強してほしいと思います。今までの数学が苦手な人でも、これからの勉強で代数系の科目は十分に間に合います。要は興味を持って自分で進むことです。数理科学科で数の世界の神秘を体験してほしいと思います。

栗原 将人